



翠山
 1911

松竹梅の三友は、古くから愛されてきた。松は長生を、竹は節操を、梅は傲骨を象徴する。この絵は、松の雄姿を主として描き、その下に可愛らしい白兔を添えている。松の幹は、力強い筆で描かれ、その皮の質感もよく表現されている。松の葉は、墨と緑の墨で丁寧に描かれ、生き生きとした印象を与える。白兔は、墨で輪郭を捉え、毛の質感は淡い墨と白の紙のコントラストで表現されている。全体的に、静寂と生命力が感じられる作品である。

白兔は、春の訪れを告げる使者とされ、長寿の象徴としても知られる。松の葉は、清涼感があり、冬でも枯れずに生き残る。この組み合わせは、新年の希望と福を祈る象徴としてよく用いられる。絵師の筆致は、松の幹の力強さと、葉の繊細さ、そして白兔の可愛らしさを巧みに表現している。右側の赤い印は、作者の署名と年号を示している。全体的に、この絵は、自然の美しさと、新年の祝福を込めた作品である。

⑧ 新年摺